



ハンドル交換

対象車両:SW650LX

2010/5/25

作成者:ほほえみ

対象車両



対象車両は、スズキ スカイウェイブ650LXです。

本来であれば、レポートにする程の事ではなかったのですが・・・

ちなみに、この写真は能登半島(2010)で撮影しました。

きっかけ

スカブーを購入する前から、「せめてハンドルだけは交換したい…」と思っていました。

ハンドル交換自体は、特別難しい事はないと思いますが、そこは今回のメインテーマと繋がっています。

スカブー650用のセット商品は、Oppsやネットで見る限り、見つかりませんでした。(泣)

(以前どこかの雑誌で見かけた記憶はあるのですが…謎)

当初、以前マジェで使用していたセットバックポストとハーディーHigh、それに、T-MAXで使用していたハーディーMiddleとハンドルポストなどがありましたので、それを利用して交換を行う予定でした。

しかし、実際に取り付けようとすると…まずハンドルポストのピッチが2mmくらい違い、つける事が出来ませんでした。

ちなみに、セットバック無しで、ハーディーのHighを取り付けてみた所、格納したミラーに綺麗に干渉してしまいましたので、これまた断念…泣泣

スカブーのフロント周りは、大柄でハンドルの交換に対し、干渉するとは思っていませんでしたが…。
そこで、「じゃ、誰もスカブーでハンドル交換などはしていないのか…」と思い、ネットで検索をしました。

すると、数は少ないですが交換をされている方がいましたので、それを参考にして、自分のアイデアを考えました。

始めは、ハンドルをノーマルとほぼ同等のサイズのものを探してきて着けることも考えましたが、そのサイズのハンドル自体が殆どなく、しかも高い…。(探し方が足りないんでしょうかね～悩)

ここで色々悩みましたが、ハンドルを選べない状況下で交換するのは、後で後悔しそうなので、なるべく自由に選べるレベルにしたいという事を重要視して、セットバックさせて、ミラーと干渉しないようにすれば、十分今持ち合わせているハンドルや種類の多いハンドルとマッチするのでは…と。

ちなみに、スカブーを購入前から感じていた事として、シートに座った状態からハンドルまでがかなり遠いイメージでした。

きっかけ

これは乗り始めて、現在も感じる所ですが、スカブーはかなり大柄な体系を意識して作られたのか、あるいはアメリカンのアップハンドルを意識したのか、ハンドルが遠く、しかも高い位置に設定されています。

すれ違うスカブー650を見ても、殆どの方がノーマルのカバー付きハンドルをそのまま使っているようでしたので、どうもその辺が気になってはいました。

只、実際に交換を意識した時、そういった社外品が殆どない事を考えると、仕方のない部分なのかなあとと思っています。(ある程度は我慢できる範囲ですね。)

いざ、ハンドル交換への道として、まず、セットバック用のステーを探しに行きました。

実際に探しに行ってもスカブー650用は当然ありませんので、店員の方に分かり易いように、現物(ハンドル固定ステー)を車体から外し、「これに合う物ありますか？」と尋ねて、探してもらいました。

と、店員さんが「ヤマハ以外ならば、合うと思いますので、その方向で探してみましょう」との事。

実際、今までのヤマハ車以外に乗ったことが無かったため、そう言われればそうかも・・・。

で、使えるステーを発見！

価格は、9450円と決して安くはないですが、これを逃すと他の商品も同じような値段がしていましたし、また決断が鈍りそうな予感もしていたので、即購入。

セール日にはなかったものの、後で思えば、良かったと思っています。

で、ハンドルとセットバックステーの用意が出来ました。

次に、必要な物は・・・そう、ハンドルポストカバーです。

標準のあのどデカイハンドルカバーを外すと、穴が開いています。

あれを塞がないと、見た目もそうですが、中の配線等にダメージを与えてしまいそうですので、ここはきちんと覆ってあげる必要があります。

では、これをお店で探すと・・・あるはずがありません。

スカブー250などのカバーは売られていますが、20000円近くもするものだったり、かなりの金額がしましたし、かつ、着くかどうかもおそらくお店の方も分からないでしょうから、ここで掛けに出る訳には行きません。

きっかけ

そこで、無いなら・・・カバー自体ならば自作できるのではないかと思います。

ステーなど、強度が必要な部分に関しては、素人が勝手に決めてしまう訳には行きませんが、カバーだけであれば、問題ありません。(と勝手に言い聞かせています)

しかし、ここは見た目も重要な場所なので、ちょっと難しい所です。

実際にチャレンジされている方の写真を参考にしながらイメージを膨らませ、簡単なポンチ絵を書きながら、案を練り上げていきます。

材料は、アルミ板(2mm)、とL型ステーを使用することにします。

アルミ板を曲げて製作することも考えてはいましたが、多分自分の技量ですと、曲げが中途半端になったり、左右でバラバラになったりと、見た目がボロボロになりそうでしたので、なるべくシンプルにする方向で進めます。

シンプル・・・アルミ板はハンドルポストの穴、ブレーキホースなどを通す穴などを開けるだけに留めます。

L型ステーは、アルミ板の周りを囲うようにする為に使用します。(雨等の進入を少なくするため)

また、あくまでもハンドル交換を目的としていますので、ケーブル類等は、ノーマルのままで行く予定です。

さてさて、本当に出来るのでしょうか・・・。

ハンドルカバー外し【下側】



これを行う際は、あくまでも自己責任でお願い致します。

ハンドルカバーを外します。

ハンドルカバーは、下側を先に外し、その次に上側カバーを外すような手順になります。

左の写真は、ハンドルの横から見ている写真です。

写真の赤○の所に、ピンのような黒い留め具があります。

これは中心をドライバーなどで押し込むと取れるようになっています。

(ピンはプラスチック製ですので、ドライバーを直接当てるのではなく、ドライバーをウエス等で覆った状態でピンに当てるようにした方がピンを傷つけないで済むと思います。)

左の写真は、1個のピンを外すと、カバールの下側が見えてくるようになります。

上記写真のピン2個を外した後、赤○の所を外します。

ピンとここを外すと、下側のカバーが簡単に外れるようになります。



上の爪を外すと、あとは、手前に引きようにすれば、写真のようにカバーの下だけが外れるようになります。

ハンドルカバー外し【上側】



上カバーを外します。

写真は、スイッチがちょっとだけ見えています。下カバーを外すと、スイッチの近くに下カバーを外した際と同じ留め具が見えてきますので、これを左右1個ずつ外します。



後は、上カバーの留まっている場所とすると、写真の赤○のハンドルポストの所だけですので、上カバーは、上に引き上げながらハンドルポストの所が外れた事を確認できれば、取ることは出来ると思います。

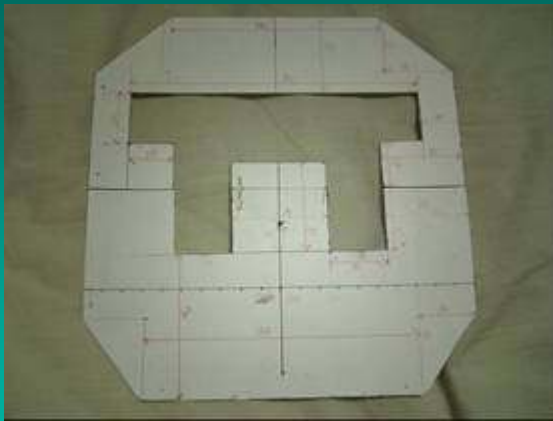
ハンドルポストの所は、ハンドルに差し込むように挟まっているので、少し硬めになっています。

但し、下カバーを外してしまえば、その留まっている部分が見えますので、見ながら少しずつ行えば、大丈夫です。

カバーを外ただけでも大分圧迫感が減りますね。

ハンドルを始めからカバー無しにしてくれれば・・・と、つい思ってしまいます。

型作成【ハンドルポスト】



ハンドルポストの穴を埋めるカバーを作成します。

まず、適当な厚紙を用意し、型を取ることにします。

後は、車体に合う様に、寸法を取り、左の写真のような型を作ります。

拡大して頂ければ分かるかと思いますが、あくまでも外寸でそれぞれに干渉しないような寸法にしていますので、実際にはもう少し詰めた状態にしたいと思っています。



実際に使用するアルミのプレートです。(ホームセンター等にありますが)

これは左下の写真のように、厚さが2mm、縦横が200x300mmのサイズです。

厚さを2mmにしたのは、加工し易さと強度との兼ね合いからです。

1mm程度にする事も可能かと思いますが、強度的な部分を考えると、3mmあっても良いくらいです。

しかし、3mmにすると加工がかなり大変で、ちょっとカットするのも凄く時間も掛かってしまいますので、2mm程度が良さそうです。



実際に加工して、2mmはベストチョイスだったと思いました。

1mmですと、加工中に曲がってしまう可能性もありましたし、3mmですと途中でイヤになっていたかもしれませんね。汗

型作成の準備



型作成を行いますので、現状用意しているハンドル(ハーディHigh)とセットバックステーを取り付けます。

左の写真は、仮止めした所です。

(スイッチ類は、只、乗せているだけです、動かすことは出来ません。)



ノーマルハンドルと今回使用するハーディーHighです。

上がハーディ、下がノーマルです。

かなり高さが違うことが分かるかと思います。

ノーマルは、約20cmの高さがありまして、ハーディーは15cm程度でしょうか・・・。



セットバック用ステーです。

型は、主にBANDIT250/400、CB400S/F-'93に使用できるものです。

35mmアップして、17mmセットバックできる物です。



名称

メーカー: POSH

製品名: スーパーバイクポジションブラケット(SL)

ちょっと予断・・・



ハンドルを交換するにあたって、気にしなければいけない事は、ハンドルを左右に動かした時に、他のパーツに干渉しないようにすることです。

どの車種もそうだと思いますが、特にスクーターの場合、ハンドルを切った際に、スクリーンと干渉してしまう事がよくありますが、スクーパーの場合、更に格納されるミラーにも気をつけなければいけません。

ノーマルのハンドルは、当然そのことも考慮され、ハンドル周辺のパーツはミラーの上を通過するような設定になっています。

では、今回のセッティングではどのような状況になるでしょう。

まず、ハンドルに関しては、ハンドル幅がノーマルより若干コンパクトの為、思ったほど干渉しないことが分かりました。

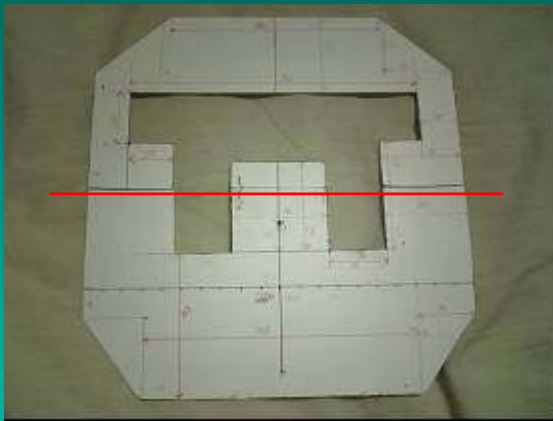
(ハンドルは車幅の登録に関わってくると思いますので、グリップエンド等で調整する予定です。)

干渉する可能性があるパーツは、グリップヒーターのスイッチ、ブレーキレバー、アクセルホースです。

これらが干渉しない位置にハンドルの高さを調整する必要があります。



型作成【プレートへの写し】



型紙を作成を行いました。

基本的に、ハンドルポストとケーブル類を通す穴以外は、開けない方向で行きます。

今回の作り方は、写真の赤線の所で2分割するような形にしたいと思います。



型紙からプレートに写した時の写真です。

2分割した理由は凄く簡単で、加工自体をのこぎりやヤスリなど、身近にある工具のみで行うため、出来るだけ簡単に加工できるように、このように2分割しました。

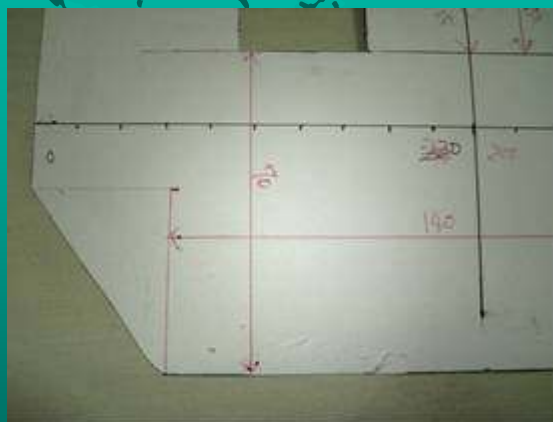
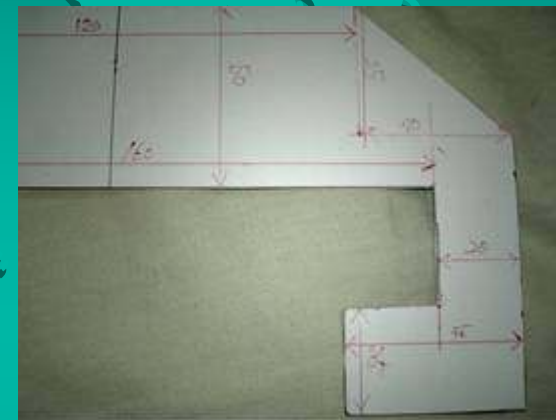
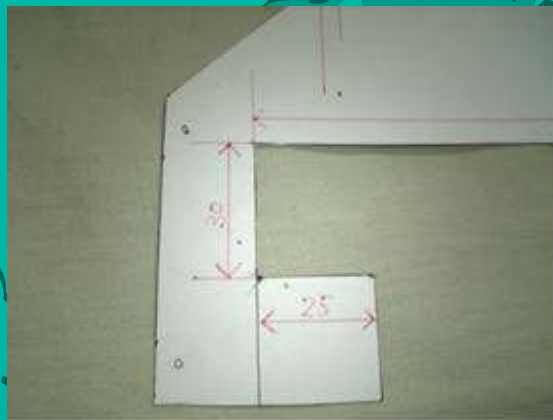
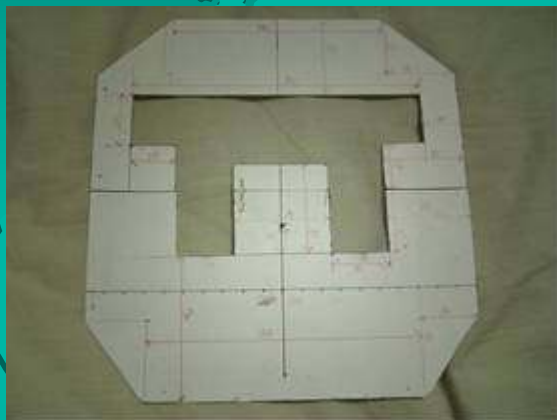
1枚で処理する場合は、上半分の所にケーブル類を通す道を作って上げる事が必要になると思います。

型作成 [全体]

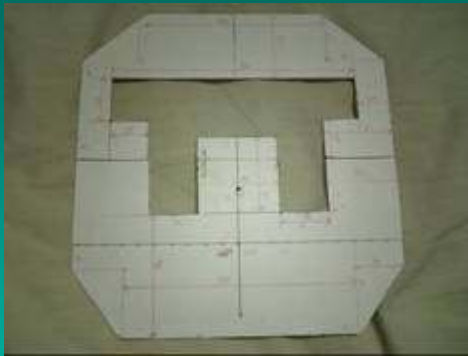
型紙の全体をアップしておきます。

これはあくまでも紙で作成して、ハンドルポストやケーブルに干渉しない程度の大きさにカットしてあります。

実際は、あとでも紹介しますが、若干変更してあります。



型作成イメージ

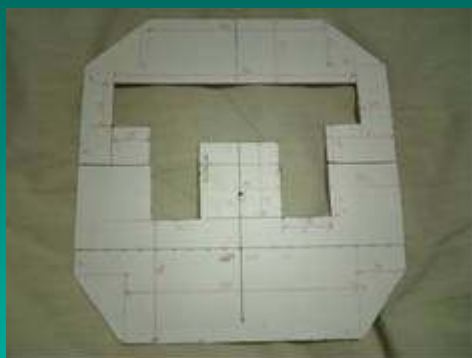


型紙に書かれている寸法を
アップしておきます。

実際の寸法も大方同じにし
ていますが、ハンドルポスト
近辺は、多少異なっていま
す。



型作成イメージ [穴位置]



ネジ穴の位置を示しておきます。

基本的には、各部材の隅から15mmの場所にしました。

L型ステーが12mmの物を使用しています。



プレート加工



プレートをゴリゴリ加工していきます。
基本的にマンパワーで行うので、元気が正確さに反映されてしまいます。笑



型紙から作成したプレートです。
こうやってプレートを削りだすと、段々自分の技量の無さが浮き彫りになってきますね。汗
プレートの四隅は、丸みをつけず、直線のための加工としています。

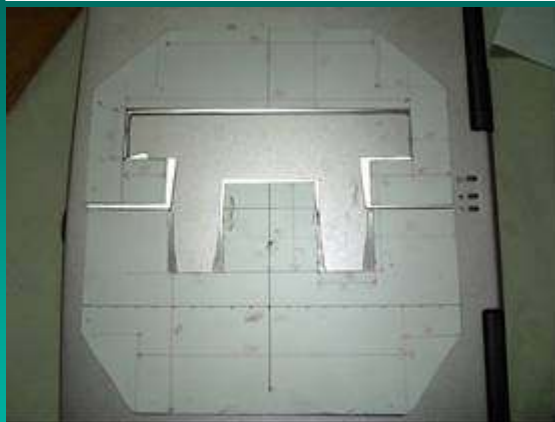


車体を型紙作成した時と同じ状態にしておき、実際のサイズを少しづつ削りながら作成しました。

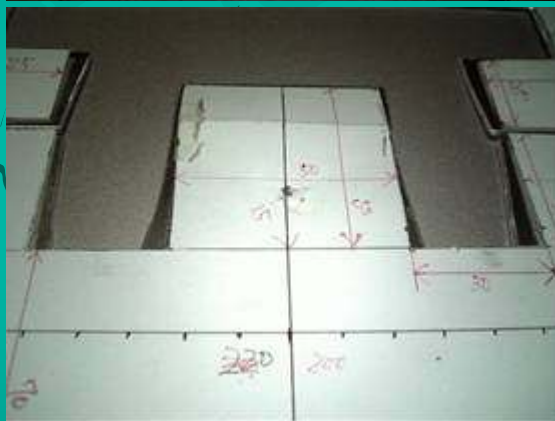
ですので、形が微妙に「見た目ワル！」となっています。



型形成 [型とプレート比較]



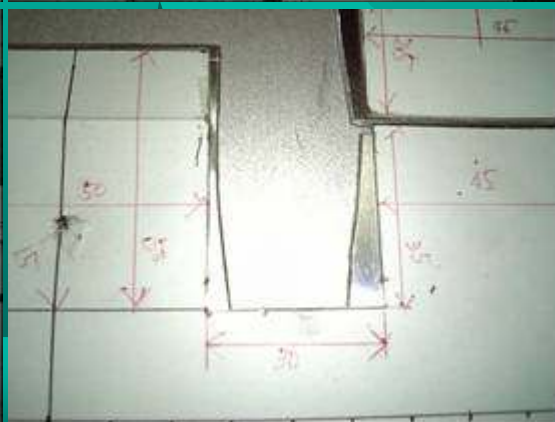
削り出したプレートに型紙を乗せた写真です。
これだけで、1日作業となってしまいました。汗



写真を見て頂ければ分かるかと思いますが、型紙と削り出したプレートでは、各場所で結構サイズや形が異なります。

そのまま削り出しても良かったのですが、なるべく隙間を少なくしたかったので、このような形にしました。

後で取り付ける写真がありますが、ここも今回のプレートを固定する一つの場所でもありますので、なるべくギリギリに収まるように削りだします。



モール処理も行いますので、ここから更に少し穴を広げています。

モール処理



プレートのケーブルが当たりそうな所にモールを取り付けました。
これは、車のドアなどに傷防止として利用するものです。



拡大写真です。

実際にモールを取り付けて見た結果として、本当に良かったと思います。

やはり、いくら加工面を綺麗にしても、金属とケーブルが擦れる状況は、後々故障の原因にも繋がりますので、このようにモール処理だけで、大分違うと思います。

側面加工



側面加工を行います。

プレートの側面を覆うようにし、穴を見え難くする役割と、少し高級感を出すイメージを持って、側面にプレートを取り付けます。

プレートと言っても、L型ステーを用意して、それぞれの場所に合うように切り、取り付けるようにします。

サイズは、12mmx12mmの厚さ1.2mmの物を採用しました。

この辺のサイズは、10mmや15mmなど、細かくありましたので、自分の使いたいサイズが選べると思います。

加工途中の写真を撮り忘れてしまったので、プレートに取り付けた後の写真を載せました。

基本的に、外周にL型ステーを取り付けているだけです。

仮図



側面のL型ステーをプレートに仮止めした写真です。(両面テープで取り付けてあります)
かなりイメージに近い形になってきました。



側面から見た写真です。

プレートに丸みをつけないで行うことにしたのは、このように、側面にL型ステーを取り付け易くするためです。

このレベルであれば、素人でも何とかクリアできるかと思ひまして、行いました。



仮完成



側面のL型ステーをネジによる固定を行いました。

各部材に対して、2箇所のネジで固定してあります。

接着剤等でもつけることは可能かと思いますが、やはりオートバイでの使用となりますので、振動などを考慮し、ネジ止めとしています。

ネジ穴は家にあったドリルで行いました。



写真ではあまり分からないかもしれませんが、ネジ穴が場所によって多少ずれてしまった所もあったりしています・・・自作ならではの！汗



裏面から見た写真です。

ネジは3mmで、長さは10mmの物を使いました。

振動などによる緩み防止用に、バネワッシャーなどを入れてありますので、この長さのネジを使用しています。

基本的には、これで完了なのですが、ここからもう少し工夫が必要になりました。

固定方法-1



実際に車体に固定する方法です。

カバーを只乗せるだけでは、ぐらぐらして、安定がありません。

但し、カバーですので、強度が必要な程安定した固定方法はいりませんし、プレート自体もギリギリまで詰めて加工しましたので、少し固定できれば、十分だと思っています。

そこで、何か良い方法はないかと考えた結果、ハンドルポストの中央にある穴を利用することにします。



車体のハンドルポストの写真です。

赤○の穴をうまく利用することにします。

この穴は、17mm程度あり、グリップエンド用のゴムなどを使うと丁度入るようになっています。
(グリップエンドのゴムは、家にありましたので、それを使っています。)

高さ調整用ゴム

固定用ゴム

ネジ

ワッシャー

穴には、グリップエンドを固定するゴムを2個使い、少し押し込むような状態までネジでゴムを膨らまして使用します。

固定方法-2



固定方法ですが、実は、この部分が意外とどうしようか悩んだ所でした。
只置くだけですと、ガタガタしてしまうと思います。
左の写真の赤○の所が、下の写真のオレンジ色の穴に入る物です。



プレートをどうやって固定するかは、当初から色々悩んでいましたが、
このくらい簡単に出来れば、ヨシとします。



プレートの下半分の写真です。

2分割にした事で、ハンドル等を取り付けた後でも
プレートをつける事が出来ますので、メンテナンス
性は比較的ある方だと思います。



全体的な写真です。

これを車体に付ければ、完成です。

固定方法-3



前のページのハンドルポストの穴にゴムパッキンで固定する方法で、試し運転を行いました。すると、やはり1点だけの固定では上下左右とも少し遊びがあり、振動等でハンドルポストとの干渉で「カタカタ」と音が発生していました。

そこで、写真赤○のハンドルポストの穴の所にもモール処理を行いました。

モールは、ゴムまでは行きませんが、基本柔らかい素材の為、ハンドルポストに隙間なくしっかり固定することが出来、振動も抑えることが出来ました。



下の写真は、その拡大写真ですが、隙間なく挟み込まれているのが分かるかと思います。

ケーブル類の所にもモール処理を施しているので、ケーブルを傷つけることはなさそうです。

これを行うきっかけは、以前の車両で、ケーブルが少し干渉していることがあり、その対策を今回の車両では行う予定でしたので、良かったと思います。



固定方法-4



今回作成したパーツが、車体のカウルと干渉した際に、カウルを傷つけないように、ここにもモール処理を行います。

モール処理は、全て両面テープで取り付けようとしています。

左の写真は、両面テープを貼り付けた後の写真です。

(この両面テープはかなり強力なタイプです)



モールを取り付けている写真です。

こうすれば、多少モールに力が掛かっても、モール自体が外れることはないと思います。

両面テープを取り付けなくてもあまり取れることはありませんでしたが、車体に今回のパーツを取り付ける際に、時より外れそうになったりしていましたので、その対策です。



ハンドルポストの取り付ける直前の写真です。

ゴムパッキンを先に差し込んでから、ポストにぎゅっとはめ込むようにしています。

交換後の写真一覧-1



ハンドル交換後の写真です。

ハンドルを切った状態でもハンドルが他のパーツに干渉する事はありませんでした。

強いて言えば、下半分のパーツをもう少し小さめに作っても良かったかもしれません。



交換後の写真一覧-2



作成したパーツですが、加工時に多少、傷が入ってしまった所もありますが、ホントよく見ないと分からない程度ですので、ヨシとします。



横からのアップ写真です。

ノーマルのカバーよりも大分スッキリした感じがあります。



ケーブル類は、ノーマルのままにしています。

TMAXと比べ、配線がスッキリしていてやり易かったですね。

交換後の写真一覧-3



横からのどアップ写真です。

カウルとのクリアランスは、大よそ1cm程度です。

ハンドルを左右に動かすと、多少隙間が変わったりしますので、このくらいのクリアランスを保つと、カウルと干渉しません。



交換前後の比較-1

交換前後の写真です。

ライダー側から見ると、こんな感じで、ハンドル位置も大分下がっていますし、ポスト周辺がとてもスッキリしている事が分かります。

ナビ等を設置する場合でも、ハンドルを有効活用する事が出来そうです。



交換前



交換後

交換前後の比較-2



交換前

地上からの高さ: 約115cm

ハンドル交換した前後の写真を比較してみました。

ライダーに向かって前後方向には殆ど変わっていませんが、上下方向は交換後の方がかなり下がっていることが分かるかと思います。

数値に直すと、約8cm下がっていることになります。

実際に運転してみると、グリップの位置が大分下がったので、距離も短く感じますし、何よりバランスが取り易くなりました。(ニーグリップが出来ないので、ここは本当に重要だと思います)

それと、グリップに風が殆ど当たらないことが分かりました。

これまではミラーよりも上にグリップがあったため、風が直接手の甲に当たるような感じでしたが、ハンドル位置が下がった為、ミラーがナックルバイザーのような役割になり、思いのほか効果があります。



交換後

地上からの高さ: 約107cm

まとめ

- ・ハンドル交換に思いのほか、時間を費やしてしまいましたが、自作でも恥ずかしくないレベルに仕上げる事が出来たので、満足しています。
- ・スカブーの場合、アフターパーツに限りがありますので、今後も自作も視野に入れた考え方をする必要性があると思います。
- ・寸法は、やはりハンドルポスト周辺が難しく、少し削っては確認し・・・を繰り返しましたので、イメージ通りの感じになりました。(だが、大変・・・汗)
- ・ノーマルよりハンドルの位置が下がった為、運転も楽になりました。
- ・プロテクション効果がアップするとは思っていませんでした。
- ・ミラーの視界もノーマルとまったく変わらない視野が確保されています。
- ・アフターパーツとして売っていても良いと思いましたが、何故スカブー650の商品は無いんでしょうか・・・。